平成24年2月21日（火）TRセンター3階The Abukumaにて、「第2回統合産婦人科学研究合同シンポジウム」(創生応用医学研究センター)が開催されました。

今回の研究会では、産婦人科の医師・看護師･学生・研究者の方、合わせて約40名の方にご参加頂きました。

第一部【シンポジウム】では、岡江寛明先生より「体細胞クローンとゲノムインプリンティング」、桂田かおり先生より「死産･新生児死亡を経験した父親の子どもの死の実感プロセス」、西郡秀和先生より「受精鶏卵モデルを用いた環境と胎児脳神経発達の検討」というテーマで研究発表をして頂きました。研究対象がマウス、鶏、男性と多岐に渡り、参加された会場の先生方からの質問への回答等、大いに意見の交換、情報提供をして頂きました。

第二部【特別講演】では、大阪大学　産婦人科　冨松拓治先生より「臨床研究および動物実験から、胎児脳障害の予防の可能性」について御講演を頂きました。ラットの脳虚血モデルのよるアポトーシスと低体温によるレスキュー、羊モデルを用いたCO2濃度上昇に引き継ぐ脳内酸素濃度の上昇、さらに、臨床への応用として、胎児脳障害の予防の可能性について、非常にわかりやすく説明して頂きました。

統合産婦人科学研究コアセンターでは、これまでの産婦人科領域を超えた、大きな視野と戦略に基づき、産婦人科学・助産学・女性医学・生殖基礎医学などの各研究チームの深い専門領域間の融合により、新たな産婦人科学研究を推進していくことを目標にしており、今回のシンポジウムに参加されたことによって皆様の新しい道標になったと思うのは、私だけではないと思います。

約 2 時間に渡る研究会の中で、大いに意見を発表して頂き、皆様のご協力もあって、無事盛会のうちに終えることが出来ました。
ご参加頂きました皆様に、心より感謝申し上げます。